

アークフラッシュ施工された老人施設からは6年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< ** > <http://www.arc-flash.co.jp> **新着施工写真を更新いたしました**

<< 北京施工報告 >>



北京輝煌時代ビルの施工を行いました。

<< インフルエンザ情報 >>

鳥インフルエンザ インドネシア死者42人 対策遅れ、世界最多並ぶ

インドネシアの保健省当局者は20日、新たに男性1人の鳥インフルエンザ(H5N1型)による死亡が世界保健機関(WHO)の検査で確認されたと発表した。同国の累計死者数は42人になり、ベトナムと並んで世界最多となった。今のところ人間に大流行するようなウイルスの変異は確認されていないが、WHOは、警戒を強めている。

ベトナムでは今年に入ってから鳥インフルエンザによる死者は1人も出ておらず、鶏の大量処分などの感染防止策が成功したとみられる。これに対し対策が遅れているインドネシアでは世界で最も早いペースで死者が増えており、国連食糧農業機関(FAO)などが「最も警戒すべき地域」と警告していた。

さらに2004年にインド洋大津波、今年5月のジャワ島中部地震に続いて今月17日にも津波に襲われ、医療、検疫などの体制を鳥インフルエンザ対策に十分に割けない状態となっている。

AP通信などによると、今月12日、インドネシアの首都ジャカルタ郊外に住む44歳の男性が死亡し、H5N1型のウイルスが確認された。男性は鶏の空揚げを路上で売っており、毎日のように鶏と接していた。

感染を封じ込めるためには、養鶏場などの鶏を大量処分して感染源を断つことが重要だ。しかし、同国では貧困や、鶏の処分に対して国の補償が十分ではないことなどから、徹底した対策が講じられていない。しかも「約2億3000万人が一万数千の島に散らば

って住んでおり、感染防止教育を普及させるのは難しい」(保健当局者)という。同国北スマトラ州カロ県では今年4～5月、感染した家族8人のうち7人が死亡した。このケースでは鶏への感染後、人から人への連鎖感染が起きた恐れが指摘されている。世界で確認された死者は133人で、感染した場合の致死率は58%にも達している。WHOはウイルスが変異して大流行の引き金となる危険性も十分にあるとして、対策の徹底と警戒を呼びかけている。

<<経過報告>>

建材ブロックにアークフラッシュを浸漬加工した物を放置試験の中間報告の写真です



右：浸漬加工したもの

112日経過した状態

気温も上がり、コケなどが繁殖しやすい状況になり床、未加工の部分にはコケの発生が始まっているが、加工建材には変化は無い

*** 発行責任者：株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 honbu@arc-flash.com

1号～50号までを配信希望の方はメールにて申込ください。